

博物館収蔵資料のデジタル化共同実施支援

京都ミュージアム連携による博物館収蔵資料
デジタルアーカイブ共同推進事業の取組をととして

KYOTO地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会
中西 俊介（京都府文化生活部文化政策室 副主査）

本日の内容

- 0 本発表のターゲット
- 1 自己紹介と京都府の博物館ネットワーク組織の紹介
- 2 京都ミュージアム連携によるDA推進共同事業の概要と実施体制
- 3 事業実施に至る経緯と仕掛け
- 4 事業を実施するうえで、苦労した点・課題
- 5 おわりに

こんな人に聞いてほしい

- デジタルアーカイブに興味のある方
- 興味はあるけど始め方がわからない方
- 博物館同士でつながりたい方
- 博物館同士をつなげたい方
- 行政職員（文化・教育）
- 小規模ミュージアムの職員
- 国の補助金を活用したい方、してほしい方

01

自己紹介とネットワークの紹介

発表者紹介とフォーラムの概要

ネットワークを活かしてデジタルアーカイブに挑戦した理由

発表者

学芸員資格なし。
事業開始までデジタルアーカイブの知識もほぼ
ゼロの状態からスタート。

京都府ミュージアムフォーラム

ICOM京都大会2019を契機に設立。府内69館が
加盟し、公立・民間、歴史系・美術系を問わず
連携するネットワーク。京都府が事務局。

主な活動内容

合同展覧会や研修会、専門人材派遣など実施。
これまでの「つながり・関係性」がデジタルア
ーカイブ事業の土台となった。

KYOTO地域文化をつなぐ ミュージアムプロジェクト実行委員会

ミュージアムフォーラムの地域連携
プログラムを実施するため、京都府立丹後郷土
資料館を中心とし、各地域のミュージアムで
構成する実行委員会。

02

事業の概要と実施体制

京都ミュージアム連携による博物館収蔵資料デジタルアーカイブ推進共同事業

府内11のミュージアムによる文化庁Innovate MUSEUM事業を活用した
スタートアッププロジェクト「0から始めるデジタルアーカイブ」

一館でも多く、一点でも多く

予算や人員の制約で未着手だった小規模館の資料をデジタル化。独自システムは作らず国のプラットフォーム（文化遺産オンライン→ジャパンサーチ）での公開を目指す。

複合的なアプローチ

11施設の資料デジタル化に加え、丹後震災遺構の3D化実証実験や、北部地域でのデータセンター構築に向けた調査研究も実施、事業期間中に府内ミュージアム横展開を意識した全体研修の実施。

人材育成と持続可能性

専門家の指導により職員自らが撮影技術や考え方を学ぶ。専門家や事業者に「全部お任せ」ではなく、館の中にノウハウが残る体制づくりを重視。（手間がかかる方法をあえて選択）

連携する11の参加施設

京都府北部を中心に、多様な規模・館種のミュージアムが参画

参加施設名

- 【京都府】 府立丹後郷土資料館（中核館）、府立堂本印象美術館
- 【京丹後市】 京丹後市立郷土資料館、京丹後市立丹後古代の里資料館
- 【与謝野町】 与謝野町立江山文庫、与謝野町立古墳公園はにわ資料館
- 【舞鶴市】 舞鶴市立赤れんが博物館、舞鶴市郷土資料館
- 【亀岡市】 亀岡市文化資料館
- 【向日市】 向日市文化資料館
- 【大山崎町】 大山崎町歴史資料館

デジタル化推進のステップ

撮影技術の習得から外部支援によるカバーまで

STEP 1

専門家による指導と撮影技術のレクチャー（実地研修）



STEP 2

各館職員によるデジタル化試行（やってみる！）



STEP 3

外部事業者による撮影支援の導入（しっかり数はおさえる）



STEP 4

メタデータ作成と公開準備（各館で文化遺産オンラインにあげる！）

+α

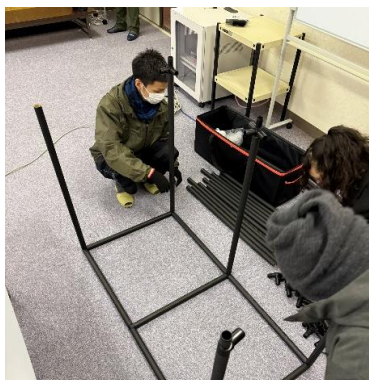
事業内容の可視化と横展開を意識した全体研修の実施

STEP 1

専門家による指導と撮影技術のレクチャー（実地研修）

スケジュール

DAY1	0.5日	事前打合せ 研修準備	・施設担当者と打合せ ・撮影資料確認 ・座学 ・紙管フレーム組立 ・撮影機材セッティング
DAY2	1日	研修	・撮影機材説明 ・平面や立体物の資料撮影 ・撮影データ加工 ・使用ソフトウェア説明



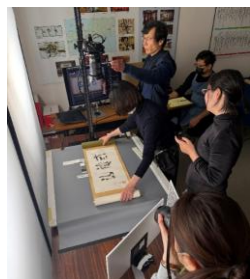
▲紙管フレーム組立の様子



フェザーライト（Feathered Light）



テザーモード撮影



STEP 2

各館職員によるデジタル化試行（やってみる！）



STEP 3

外部事業者による撮影支援の導入（しっかり数はおさえる）

スケジュール

DAY3	1日	研修から 引き続いての 資料撮影	・施設担当者と打合せ ・撮影資料の確認 ・撮影セット単位で、 大きい物から順に撮影
DAY4	1日	難易度が高い 資料撮影	・前日の残り資料の撮影 ・撮影セットが複雑または 照明の難易度が高い撮影



▲ストロボを使用した撮影の様子



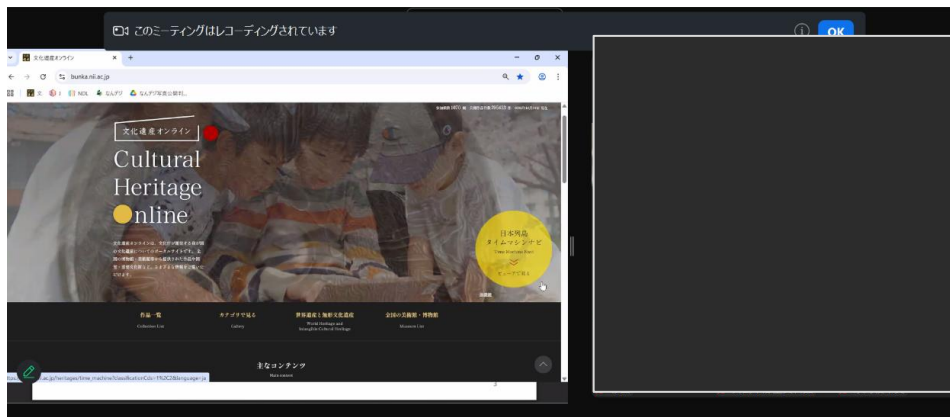
▲展示台を利用した撮影の様子



▲三脚+延長ポールを使用した俯瞰撮影の様子

STEP 4

メタデータ作成と公開準備（各館で文化遺産オンラインにあげる！）



このミーティングはレコーディングされています

1. 公開する情報に問題はないか
＝公開する収蔵品情報の法的・倫理的リスクを確認する。

2. 公開する画像データの二次利用条件（CCライセンス）表示
＝広く公開し活用を促進するために権利関係を明確にし、利用条件をわかりやすく表示することが求められる。

ステップ1：権利関係のチェック

公開前に、最低でも以下の4点を確認しましょう。

1. 所蔵者の意向：寄託品などの場合、所有者の同意は得られていますか？
2. 著作権の取扱い：著作権保護期間内の作品の場合、著作権者から許諾を得ていますか？
3. 肖像権・個人情報：人物が写った写真など、プライバシーへの配慮は必要ですか？
4. その他センシティブ：公開することで不利益を被る個人やコミュニティはありませんか？

ステップ2：二次利用条件を明示する（CCライセンスの活用）

著作権の問題がクリアになったコンテンツは、利用条件を分かりやすく表示することで活用が促進されます。

- ・CCライセンスは、「著作権を保持しながら、一定の条件で自由な利用を許可する」意思表示のツールです。

・第三者が権利を有している場合は、どのような条件の利用とするか協議し合意と許諾を得ます。
・ジャハンサーチとの連携を考慮し、広く公開し活用を促進するために権利関係を明確にし、利用条件をわかりやすく表示することが求められています。

5

[illegible][illegible][illegible][illegible]

【京都府ミュージアムフォーラム第5回合同研修会「デジタルアーカイブ全体研修」】

- ・ 日時：令和8年2月9日（月） 10:00～16:20（受付開始9:30）
- ・ 会場：京都府立京都学・歴彩館 小ホール（〒606-0823京都市左京区下鴨半木町1-29）
- ・ 対象：京都府内ミュージアム関係者、石川県内博物館関係者（京都府と石川県の連携協定※による）、京都府内自治体の文化・教育担当職員
- ・ 費用：無料（要申込）
- ・ 主催：京都府・KYOTO地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会



●博物館資料の撮影実践



●デジタルアーカイブの教育等への活用



●3D技術を活用したデジタル資料の活用方法



●博物館デジタルアーカイブ計画づくり



03

デジタルアーカイブ挑戦の経緯と仕掛け

経過（当初の懸念と意識の変化）

「本当に必要か？」 「このスケジュールでやりきれるか」という自問自答から決意へ

当初抱いていたネガティブなイメージ

高コストで持続可能性に疑問

独自DBが乱立するガラパゴス化

3DやVRなどの利用目的

多忙な現場に更なる負担を強いる

決意を後押しした視点

「まずはストック。DBなしで国のシステムへ」
という助言（アドバイザー M准教授）

「やりたいがお金も補助金申請ノウハウもない」
という現場の声

文化庁の補助事業から感じる強い危機感

博物館ネットワーク担当の役割

デジタルアーカイブ実施に向けたハードルと仕掛け

時間はかかるけれど、「ともにデジタルアーカイブに取り組む」道をいく

ハードル

(参加館)

「やりたいが博物館登録・指定施設申請要件が壁」
「文化遺産オンラインの登録作業が不安、デジアカの知識がない」
「上司を説得する時間が足りない」

(事務局)

デジタルアーカイブの知識皆無、職場で前例がない

仕掛け

(博物館登録・指定申請)
教育委員会所管部署と連携し、要件・申請方法の合同説明会を開催

(補助金申請等)
申請業務、発注及び事業者調整など一括して京都府が行う

(知識、ノウハウ)
有識者ヒアリング、事業者ヒアリングを複数回実施
館の不安を払拭するため説明と説得を複数回実施

事業実施

・中核館を除くすべての施設が登録・指定施設へ申請

・実地研修、全体研修、文化遺産オンライン操作研修を実施

・全11施設で756点の資料を撮影、632点を文化遺産オンラインを通じジャパンサーチで公開

・北部文化データセンター（仮称）を活用して自発的な資料撮影が生まれている。

本事業を実施する上で大切にしていたこと

単なるデータ作成に留まらない、ネットワークならではの価値

現場を知る、現在地を知る

可能な限り撮影・研修の現場へ足を運び、現状を把握。ミュージアムや事業者と対話を重ねて事業を設計。

新たな出会いの創出

アドバイザーや3D撮影に協力してくれる事業者など、デジタル化をきっかけに博物館と社会の新たな接点が生まれている。

「まずやってみる」精神

完璧を目指すより、まずは第一歩を。スタートアップとしての課題を全て受け止め、次なる展開への糧とする。考えてやらないより、やってみてから考える！

04

苦勞した点・課題

「時間が足りない」 初めて尽くしの中、これが一番厳しかった

事業スケジュール

5月：参加施設の体制構築
6月：文化庁補助事業に申請、7月採択
8月：事業者、有識者、各館とのヒアリング
9月：プロポーザル実施、10月に事業者決定。
10月：事業本格始動で2月末まで怒涛

実施体制・研修内容の標準化

手探りで進めていったため、必ずしも平易で誰でもできる内容になっていたとは言えない。

館の状況の違い

小規模館の現状は想像以上。
これは実際に足を運び、近くで事業の様子を見ていたから気づけたこと。

機材購入、人、時間、全て余裕ない！
(2~3名体制、属人化、市町村職員が館職員を兼務など)

質の確保

初年度は「こなす」ことが目的になっていた側面もある。用語や基本的なデジタルアーカイブの知識など時間をかけてフォローしていく。

実地調査・実地研修・撮影のスケジュール

	施設名	住所	実地調査	実地研修/撮影
1	京都府立丹後郷土資料館	京都府宮津市字 国分小学天王山 611-1	2025 11/13	2025 12/9～12、 2/20
2	大山崎町歴史資料館	京都府乙訓郡大山崎町 字大山崎小字 電光 3 番地	2025 10/29	2025 12/22～24
3	向日市文化資料館	京都府向日市 寺戸町南垣内 40-1	2025 10/30	2026 1/6～9
4	与謝野町立江山文庫	京都府与謝郡与謝野町 字金屋 1682 番地	2025 11/10	2026 1/12～14
5	与謝野町立古墳公園 はにわ資料館	京都府与謝郡与謝野町 字明石 2341	2025 11/10	2026 1/14～15
6	舞鶴市立赤れんが博物館	京都府舞鶴市字 浜 2011 番地	2025 11/12	2026 1/18～21
7	舞鶴市郷土資料館	京都府舞鶴市字 南田辺 1	2025 11/12	2026 1/20～22
8	京都府立堂本印象美術館	京都府京都市北区 平野上柳町 26-3	2025 10/29	2026 1/27～30
9	亀岡市文化資料館	京都府亀岡市古世町 中内坪 1 番地	2025 11/14	2026 1/29～31
10	京丹後市立郷土資料館	京都府京丹後市 網野町郷 55 番地	2025 11/11	2026 2/3～6
11	京丹後市立 丹後古代の里資料館	京都府京丹後市丹後町 宮 108 番地	2025 11/11	2026 2/3～6



ここに、各館による文化遺産オンライン登録作業（2月末まで）や全体研修（2月）も加わる

05

おわりに

いろいろ記載しましたが、
ひとつだけお伝えするなら

「文化庁のデジタルアーカイブ事業、
絶対に活用したほうがいいです」

私がデジカ事業活用をおすすめする3つの理由

全額補助メニューは他にない！本当にありがたい！

デジタルアーカイブといった予算はつきにくい。ここに補助があるだけで助かる！

行政と博物館または博物館同士の交流・理解促進の貴重な機会

やってみて反省や課題もあるが、博物館の現状を知ることができた。交流が進むとそれぞれの思いを反映した新たなプロジェクトと一緒に考えることができる。行政と博物館が連携する意義は大きい！

館資料がデジタル化されて見てもらえる！

事業趣旨そのままだが、特に小規模館にとってこれはうれしいことのはず

私が事業に取り組んで感じたこと

文化庁

仕組みをつくる（大変なこと）

京都府・館

仕組みを活かす（まずやってみる！）

すべての
関係者

仕組みを守る（ここで終わらず、バトンをつなげる！！）

どうやって始めよう？

- ・行政を巻き込む／博物館を巻き込む（声に出すしかない！動くしかない！）
- ・得意な分野でリードする（難しい募集要項を読みとく等）
- ・違いはあるけれど、お互い労い合い、妥協しあう
- ・やってみた人に聞く↓

課題も実情も、撮影レイアウトもスケジュールもすべて公開しています。
（ゴリゴリ取り組んでいる博物館の参考にはならないと思います。）
検索してください。



[【取組報告】京都ミュージアム連携による博物館収蔵資料デジタルアーカイブ推進共同事業（令和7年度文化庁Innovate MUSEUM事業） | 京都府ミュージアムフォーラム（京都府の博物館・美術館情報）](#)

感謝

- ・ デジタルアーカイブに挑戦するきっかけをいただいた文化庁の皆様に
- ・ 「大丈夫、一回やってみましょう！」といいながら時に厳しいことを言い、無理もさせてしまうことがあるにも関わらず、ついてきてくださった取組実施館のみなさまに